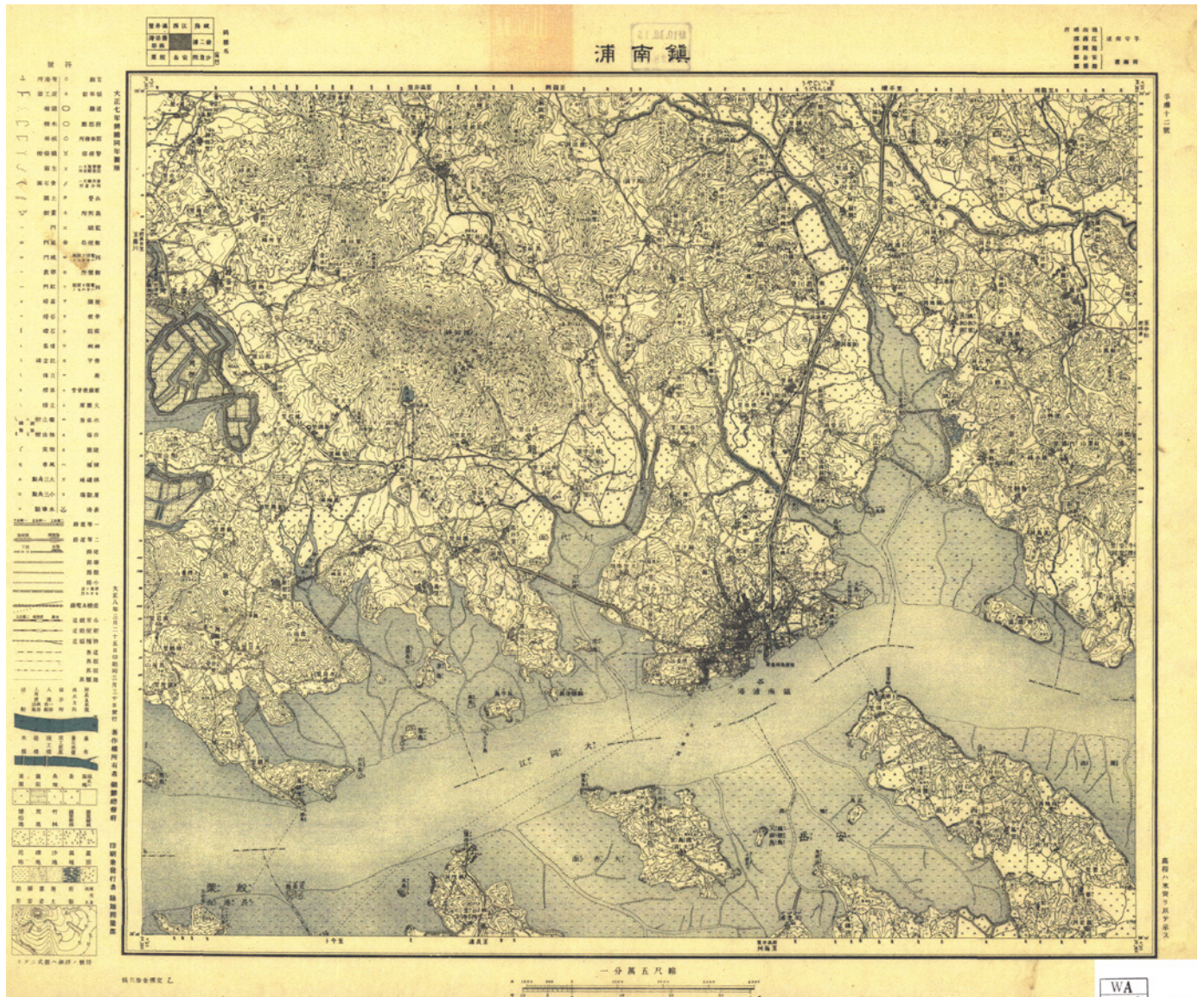


分布図情報



外邦図 5万分の1「鎮南浦」 大正8(1919)年 陸地測量部発行

外邦図とは、戦前に旧日本陸軍参謀本部陸地測量部が、主に軍事目的で作成した外国の地図のことです。

この図は、大同江の河口近くに位置し貿易港として発展していた「鎮南浦」とその周辺を範囲とする5万分の1地形図です。鎮南浦は現在の朝鮮民主主義人民共和国・南浦^{ナムポ}で、北東約50kmにある平壤とは高速道路と鉄道で結ばれ、現在でも北朝鮮における西海岸最大の貨物港となっています。



「国際研究集会－中央ヨーロッパは今！－」

地図講演会

「道中図の世界－東海道・中仙道を中心に－」

岐阜県図書館では、皆様に地図について関心と理解を深めていただくことを目的として、毎年地図フォーラムと地図講演会を開催しています。

本年度は9月29日（日）に中央ヨーロッパ研究グループと共催で、地図フォーラム「国際研究集会 - 中央ヨーロッパは今！ - 」を開催しました。

この研究集会は、岐阜県とも交流がある中央ヨーロッパについて、東欧革命を経て激しく変化した現状と今後の展望などを、現地の研究者による発表と日本の研究者による解説を通して理解することを目的に開催されました。

当日は、スロバキアなどから4名の海外研究者にお越しいただき、具体的な社会変化の様子や将来予測、また日本との関係についての考察などの発表をしていただきました。

地図講演会は11月10日（日）、建築家で古地図収集家の山下和正さんを講師にお招きし、「道中図の世界 - 東海道・中仙道を中心に - 」と題しご講演をしていただきました。

講演会では、東海道や中仙道など、街道の旅行案内図として刊行された道中図の歴史や発達の様子、またその種類や分類などについて、多数のスライドを用いながらお話をさせていただきました。

いずれも多数の方々のご参加があり、発表や講演を熱心に聞いていただき、また質疑応答なども活発に行われました。

来年度も地図フォーラム及び地図講演会を実施する予定です。詳細につきましては、インターネットホームページなどでお知らせしますので、皆様のご参加をお待ちしております。



地図フォーラム
「国際研究集会 - 中央ヨーロッパは今！ - 」



地図講演会
「道中図の世界 - 東海道・中仙道を中心に - 」

夏休みわくわく地図教室

中高生のためのリモートセンシング教室

【夏休みわくわく地図教室】

地図に関心のある小・中学生を対象に、地図に関する講義とコンピュータを使った地図の作成を行う「夏休みわくわく地図教室」が、7月24日（水）と7月25日（木）に開催されました。

地図教室では、地図教育を研究されている編集ライターの渡辺一夫さんにお越しいただき、家から学校までの地図を手で書きながら、地図における方角や距離、地図記号などの意味を理解したり、地図帳や地形図にはたくさんの情報が詰まっていることなどを説明していただきました。その後、スライドで第7回児童生徒地図作品展の入賞作品を鑑賞し、実際にパソコンを使って学校や家の周りの地図を作成しました。

参加者からは、渡辺さんの丁寧なお話や、実際にパソコンを使った地図作りが楽しくて、地図についての理解を深める事ができたという感想をいただき、この地図教室をきっかけに、第8回児童生徒地図作品展に作品を応募された人もいました。

来年度も引き続き実施する予定です。お申し込み方法などはインターネットホームページなどでお知らせします。

（例年7月上旬より先着順で参加受付をします）。



夏休みわくわく地図教室

【中高生のためのリモートセンシング教室】

中学生及び高校生を対象に、リモートセンシングについて理解を深める「中高生のためのリモートセンシング教室」を、1月26日（日）に開催しました。

はじめに、千葉大学環境リモートセンシング研究センターの建石隆太郎助教授から、リモートセンシングの基礎について講義していただき、リモートセンシングとは人工衛星などを用いて離れたところから地球を観察し、地球の温度や植生など様々な状態を調査することであることや、簡単なデータの解析方法、また熱帯林の開発の様子をリモートセンシング画像により経年的に紹介されるなど、リモートセンシング全般について、分かりやすくお話ししていただきました。

続いて、県民ふれあい会館の展望室から画像と実際の風景を見比べた後、参加者が実際にパソコンを使って、ランドサットデータを用いた土地利用分類図の作製などの体験を行いました。

「リモートセンシング」という言葉を初めて聞いた参加者も多かったようですが、体験を通してリモートセンシングについて学ぶことで、新たな興味を持った生徒もいました。



中高生のためのリモートセンシング教室

新規所蔵資料

古地図の収集と利用について

岐阜県図書館世界分布図センターでは、日本及び世界の地形図、地質図、分布図などの各種地図と、地図に関する図書を幅広く収集し、調査研究などにご利用いただいておりますが、平成13年度より山下和正氏からの購入・寄贈による古地図の収集にも重点的に取り組んでおります。収集した古地図は順次整理し、デ

ジタルアーカイブ（デジタル画像化）を行うことで、図書館における利用に供しています。

この度、13・14年度に収集した古地図の目録をインターネットで公開し、資料の閲覧等が可能となりましたので、検索や利用方法についてご紹介します。

① 収集資料

上記により収集した古地図は、13年度は849点、14年度は1,008点あり、内容も国内都市図、国絵図、府県図、江戸図、村図、外国製図など様々な種類のものがあります。

収集後は分類・整理を行うと共に、現在までに451点をデジタルアーカイブ化しています。

② 目録

整理した古地図については目録を作成し、世界分布図センターのインターネットホームページで公開をします。目録は、分類毎に一覧になっており、デジタルアーカイブ化したものは参考画像を見ることができます。現在、13年度及び14年度収集分について公開をしています。

③ 利用方法

世界分布図センターでの資料閲覧は、デジタルアーカイブ化した資料はコンピュータを使用し画像を閲覧することができます。デジタルアーカイブ化していない資料は、一部の貴重資料を除き原資料を閲覧することができます。（貴重資料は目録で確認できます。）

また、複写についてはデジタルアーカイブ

化した資料は、画像データの印刷が可能です。デジタルアーカイブ化していない資料は、デジタルカメラで撮影したデータの印刷が可能です。いずれの場合も、情報工房の機器を利用しますので、使用料が必要です。

デジタルアーカイブ化した資料及び貴重資料の原資料の閲覧・複写には、事前に許可が必要となります。

古地図の利用に関する詳細につきましては、必ず事前に世界分布図センターまでお問い合わせください。（利用当日のお問い合わせでは、対応できない場合があります。）

④ その他

館内展示では、テーマを設けて古地図を展示し、来館者に実際に古地図をご覧いただく機会を設けています。また、岐阜県博物館においても年1回企画展示を、アクティブG(岐阜駅)や県内市町村図書館などにおいても古地図の展示を行います。

開催場所・日程等につきましては、インターネットホームページ等でお知らせいたしますので、お近くで開催の際は、是非お越しください。

古地図目録 (ホームページ)



トップページ

古地図展



館内展示 (古地図の世界 - 北方図 -)

図名	発行年	サイズ	形式	備考	写真
3314	安永5年	361×364			3-61
3315	安永6年	460×481	洋装	洋装、洋装、洋装、洋装、洋装、洋装	3-61
3344	文政7年	370×370			3-61
3345	文政7年	370×370			3-61
3346	文政7年	370×370			3-61
3347	文政7年	370×370			3-61
3348	文政7年	370×370			3-61
3349	文政7年	370×370			3-61
3350	文政7年	370×370			3-61
3351	文政7年	370×370			3-61

資料一覧



岐阜県博物館 (古地図でみる中山道)



参考図



アクティブG (古地図の世界 - 日本図 -)

世界分布図センター所蔵外邦図 データベース化事業

1 はじめに

外邦図は、軍事的な目的などから、旧日本陸軍参謀本部陸地測量部（現在の国土交通省国土地理院）が作製・複製した日本以外＝「外邦」の地図です。外邦図の作製は日清戦争開始前の明治21(1888)年に始まり、その範囲は大陸別の小縮尺地図を除けば、北はアラスカ、東は米国本土の一部、南はオーストラリア、西はパキスタンやアフガニスタンの一部及びマダガスカルにまで及んでいます。作製は、日本の測量隊が公然とまたは極秘に測量して作製したものと、他国の測量機関が作製した地図を複製したものなどがあります。

これらの地図は、軍事的な機密性が高かったために記録が残されず、詳しい作製過程は不明な点が多くあります。また、外邦図の大半は、「秘」、「軍事秘密」などの扱いであったために、一般にはあまり知られない存在でした。



2 第2次世界大戦終戦と外邦図

第2次世界大戦の終戦時には多くの外邦図が東京神田の参謀本部分室に保管されていましたが、それらは連合軍により接收される可能性があり、またその前に処分されることも予測されました。

しかし、それらの外邦図は19世紀末から20世紀前半の貴重な資料として、研究や教育、その他の面で非常に価値の高いものであるため、接收や処分を危惧した数名の研究者が参謀本部の許可を得て、退避させることに成功しました。そして、これらの地図は1960年前後から整理され、東京大学や東北大学、京都大学、筑波大学、立教大学などの大学へ配られ現在に至っています。

3 世界分布図センター所蔵外邦図

岐阜県図書館世界分布図センターでは、平成9年度から貴重な地表の記録である外邦図の収集に努めて来ました。

年度(平成)	収集先大学名	収蔵枚数
9・10年度	東北大学	10,525
11・12年度	京都大学	1,780
13・14年度	東京大学	1,494
合計		13,799

注1：枚数には重複や欠落図幅が含まれます。

注2：上記以外に、個人寄贈の図が約100枚あります。

平成9・10年度の東北大学は、同大学理学部自然史標本館所蔵の外邦図を、同館が複数所蔵するものについては寄贈を受け、少数枚しかないものについては複製・ラミネート加工により当センターに所蔵しました。

11・12年度は京都大学総合博物館から、13・14年度は東京大学総合研究博物館から、それぞれ東北大学が所蔵していなかった地域や縮尺が異なる外邦図を抽出して借り受け、複製・ラミネート加工により所蔵しています。

なお、外邦図の収集は、平成15年度以降も欠落図幅を中心に収集・収蔵して行く計画です。

所蔵外邦図の主な国・地域と縮尺

平成15年2月28日現在

国・地域名	2.5万	5万	10万	20万	国・地域名	2.5万	5万	10万	20万
樺太	12	161			インドネシア主要部	8	907	138	7
朝鮮半島	9	638		64	インド		984		
中国・満州		530	508	62	ビルマ		459		
中国・北支	89	557		45	フィリピン		54	52	24
中国・南支	222	1,656	1,041		タイ				59
台湾	131	106		14	ハワイ諸島		60		
マレーシア		120	12	6	スマトラ島		109	278	

注1：表中の「2.5万」等は縮尺を表します。(例 2.5万=2万5千分の1)

注2：掲載は主な地域と縮尺のみで、収集先の合計枚数です。また、重複や欠落図幅が含まれます。

注3：詳しくは、インターネットホームページをご覧ください。

4 外邦図のデータベース化

前述のように、当センターでは過去6年間にわたり、外邦図の収集と収蔵に努めてきました。また、これらの外邦図の目録作成を行い、インターネットでも閲覧できるようにしてきました。

しかし、各大学別にまとめた目録であったり、一部経緯度が記載されていなかったために、外邦図のレファレンスに対して十分には応えられなかった面がありました。

そこで、14年度から収蔵外邦図のデータベース化を開始し、地図1枚ごとにデータシートを作製し、データシートから新に地域別、縮尺別の目録とインデックスマップを作製する事業を始めています。

本年度にデータベース化した外邦図は次のとおりです。

国・地域名	対象図幅の縮尺
朝鮮半島	1/5万、1/20万の全図幅
中国・北支	1/5万、1/10万、1/20万の全図幅
中国・南支	1/2.5万、1/5万、1/10万の全図幅
中国・満州	1/5万の全図幅と1/10万の一部

注1：対象合計枚数は5,127枚。ただし、重複する図幅が含まれます。

データベース化したインデックスマップは、一般にご利用いただけるように、インターネット上でも配信しています。

なお、今回のデータベース化は、所蔵外邦図の一部を対象にしているため、対象地域以外の図については従来の目録をご利用いただくことになります。

15年度は、14年度に対象とならなかった地域・縮尺の外邦図をデータベース化する計画です。作業が完了次第、14年度のものに合わせて、新インデックスマップを分布図センターカウンターに設置し、またインターネットで配信しますのでご利用ください。

5 ホームページでの外邦図の検索方法

実際に、ホームページのインデックスマップから外邦図を検索する方法をご紹介します。（世界分布図センターホームページURLは、巻末にあります。）

トップページから「資料検索」ページを開く。

「外邦図」をクリックする。

インデックスマップを見たい場合は、対象地域、縮尺の「INDEX MAP」をクリックする。

事前に、必要な地域の州名などの小地域名や経緯度を調べておくとう便利です。

案内に従って検索していくと、対象地域の図幅名、所蔵番号、棚番が記載されたインデックスマップが表示されます。

閲覧などの利用時には検索した図の図幅名、所蔵番号が必要となりますので、カウンターでお伝えください。

ホームページ (インデックスマップからの検索)



世界分布図センタートップ



資料検索



外邦図トップ



外邦図インデックスマップ

(参考文献)

- 山口恵一郎・品田 毅 編集「図説 地図辞典」武揚堂 1984.
- 田村俊和「東北大学理学部自然史標本館所蔵の外邦図」地図情報Vol.20 No.30 2000.

● 地図記号から知る地域の特徴とその変遷(土岐市下石地区) ●

地図とは地表空間を正確に記号化したもので、それを読み取ることで地域を正しく知ることができます。従って、地形・植生などの自然的事象はもちろん、社会的事象についてもそれを表す記号が色々と考案されていますが、現代では多様な経済活動が行われ、それを地図上で特定することは難しくなっています。例えば、工場がそこに存在するのは分かるが、何を生産しているかは分からないことが多くなっています。しかし、かつてはそれと分かるような記号があり、その地域の特徴をよく表していました。

その例として、土岐市下石町を中心とした地域の特徴を見てみましょう。よく知られているように、岐阜県東濃西部地方は南に接する愛知県瀬戸地方と同様、古くから陶磁器産業がよく発達した地域です。その原因は原料の陶土の産地であることです。地表のすぐ下に粘土層が存在し、崖や急斜面では人の力で切り崩したり、横穴を掘って比較的簡単に掘り採ることができたようです。

以上の点をふまえた上で、図1を見て下さい。現在は無くなりましたが水車(正式には水車房)の記号(記号1)が川沿いにあります。これは穀物の製粉用ではなく陶磁器原料の珪石・長石や陶土を粉碎し精製するためのもので、当時は身近な動力としてよく利用されていました。この水車の記号は大正9年発行の地形図までは見られます。

また、土坑の記号(記号2)にも注意して下さい。これは原料の陶土の採取場所を示しています。当時は登り窯を築

いて陶磁器を生産していましたが、その場所は原料採取地に近い谷などの斜面に作られたようです。さらに、その周辺地域では荒地や矮松(背の低いゆがんだ松)地の記号(記号3・4)が目立ちます。これは燃料として森林が伐採されたのが主な原因ですが、近代以前には家庭用燃料や飼料として草や木の刈取場として利用されていたためでもあるようです。

続いて図2を見て下さい。ここでは窯の記号(記号5)が見られます。これは磚瓦製造場とか陶磁器製造場を表わします。この窯はいままでの登窯と異なり、石炭を燃料とし、明治の末にこの地方に導入されると短期間で広がりました。その場所はいままでのように陶土の採掘地および燃料の木材伐採地の近くではなく、石炭の搬入に都合のよい道路沿い(集落の端)が選ばれています。また、原料の陶土も他の場所で採掘され、運搬されてきたようです。その結果、図1において、目立っていた土坑や荒地・矮松地はたいへん少なくなり、徐々に自然の緑がよみがえっています。

原燃料の運搬手段は同時に製品の運搬手段でもあり、この地図では一般道路のほか旧国鉄中央西線の土岐津(現土岐市)駅から駄知鉄道が敷設されているのも分かります。

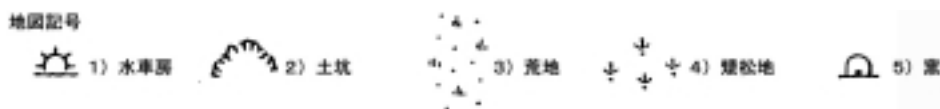
また、図1で見られた水車も大正以降、陶土の精製や磁器原料の珪石の粉碎が近代工法に取って代わられたため姿を消し、図2では見られなくなります。

なお、この窯の記号と植生の様子は昭和24年発行の地形図までは見ることができます。

図1 5万分の1地形図「瀬戸村」(明治32年発行)

図2 5万分の1地形図「瀬戸」(昭和2年発行)

【陸地測量部発行144%に拡大】



平成15年2月15日、世界分布図センター入館者が100万人を超えました。

世界分布図センターが平成7年7月7日に開館して以来、多数の方々にご利用いただいた結果であり感謝申し上げます。今後も県内外からの積極的なご利用をお待ちしております。



岐阜県図書館
世界分布図センター・情報工房

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1
TEL(058)275-5111 FAX(058)275-5115
URL <http://www.library.pref.gifu.jp/map/>
E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp